

⑥ 皆さん、こんばんは

昭和 51 年 1 月、指導委員としての訪問指導の復命書を提出するため県教育委員会学校教育課を訪れたとき、指導主事のM先生から、「今年の高校入試が終わった夜、奈良テレビで高校入試解答速報が放送されることになった。君にその仕事を頼もうと思ってね」というお話がありました。

「テレビに出演！面白そうですね。やらせてください」
何でも新しいことに飛びつく私は、そんなふうにお答えしました。

それから、約 2 か月が過ぎた 3 月 15 日、奈良県公立高等学校入学選抜学力検査が行われました。正式にはこんな長い名前がついている高校入試が終わるのを待ちかねて、私は学校教育課に行きました。

先生から手渡されたのは、初めて目にする高校入試の問題用紙と解答用紙の実物、それに正答例でした。その後、担当者から問題の出題趣旨についてお伺いしました。

解答速報というのですから、
「1 番の(1)の答えは「○」、(2)は「ア」、(3)は「1500 kg 重」です」
のように話してもいいのですが、その考え方や答えにたどりつく道筋などに重点を置きたいと思いました。また、理科なので、実験してあげたい、せめて実物を見せてあげたいと思いました。

そこで、学校に戻り、この放送に役立ちそうなものを車に積み込みました。八百屋さんに行ってレモンを探しました。レモンを使った実験が出ていたのです。

それから、急いで奈良市法蓮町にある奈良テレビの放送局に行きました。すでに、国語・社会・数学・英語の各教科を担当する先生方が集まって、準備をしておられました。

「楷書でていねいに書く」という問題の解答を見事な毛筆習字で書いておられる国語のF先生。地図に色分けをしたTPを作っておられる社会の先生、数学担当のK先生もコンパスを使ってきれいな図を作成、英語担当の先生は場面設定の絵に説明をつけておられました。

国語から始まる入試です。昼過ぎには問題を手にしたというF先生の準備は相当進んでいました。そのかわり、テレビへの出演も1番です。ちなみに、理科はというと、英語のヒアリング検査の関係で、入試の実施は最後、しかし、教科の順では4番目ということで英語より先になります。そんなことで、理科は最も忙しい教科でした。

ゴールデンタイムの午後7時が放送の開始時刻でした。初めての放送ということで、30分ほど前にはスタジオに入り、プロデューサーやディレクターの説明を聞くことになりました。

「持ち時間が終わる5分前、1分前には、それぞれの時間を書いた札をお見せしますから時間の調整をしてください。30秒前、15秒前には手で合図をし、終了の時刻には手で×の合図をして、そこでカットしますからよろしくお願いします」

という説明がありました。長年、教師としての生活を続けてきた私たちです。終わりのチャイムをそう大幅に超えたりする心配はありません。しかし、秒刻みのお話ということになると、自信がありません。

スタジオには、モニターテレビがあり、今放送されている番組が映し出されていました。そして、薬師寺の三重塔の水煙が映り、時報に続いて「昭和50年度奈良県公立高等学校入試解答速報」のタイトルが出ました。いよいよ番組のスタートです。

「皆さん、こんばんは」F先生のしぶい落ち着いた声、そして先生の姿が画面いっぱいに映りました。まだ出番のない社会以下の私たちは、ソッとスタジオを抜け出しました。

準備に使っていた会議室に戻った者は、もう一度TPを見直したり、時計を見ながら小声で話してみたりしています。それは緊張感あふれるひとときでした。

「やれやれ」といった表情で国語、社会の順に控室に戻ってきます。数学も終わりに近づきました。いよいよ理科の順番です。もう終わった2人の先生に送られてスタジオに入りました。数学の先生が最後の問題を説明しています。なんとか規定の時間に終わられました。

OHPにTPシートを載せ、机の上に実験器具を並べました。この間はコマーシャルが流れているのです。ディレクターの合図とともに、カメラに赤いランプ、ON THE AIRの合図です。

「皆さん、こんばんは。今日の入学試験はどうでしたか。これからいっしょに問題を考えていきましょう」

第1声が出ればしめたもの、もう教室で話しているのと同じです。カメラの周りで見慣れた自分のクラスの子どもたちの顔が浮かびます。

「君はどう考えたかな。そうそうそれでいいです。こんな実験を覚えていますか。そうですね、酸とこの金属の反応はどうだろう」

理科が大好きだけど、苦手なKさんの顔が浮かびます。

「あの子、この問題できたかな、よーし分かるように説明してやるぞ」翌日、クラスの女の子がやってきました。

「先生、テレビでうまいこと説明したやろ。私、お母さんに叱られたで。あんなに分かるようにうまいこと説明してくれてはるのに、この成績なんやのて」

これは、とても楽しい仕事でしたが、5年で終わりました。その後には問題作成にかかわる仕事が待っていたのです。